



天気予報の降水確率はどようやって出すの

1ミリメートル以上の雨や、雪の降る確率

気象庁は、1980年から降水確率予報を発表しています。降水確率は、雨や雪の降りやすさを予報するもので、いつ降るかや、何ミリメートル降るかを予報しているものではありません。このため、確率の大きさと、強い雨が降るかどうかは関係ありません。

降水確率は、一つの地点に雨または雪が、1ミリメートル以上降るかどうかの確率を表したもので、6時間単位に予報されます。雪の降らない季節では、雨の降る確率予報になります。

降水確率が30パーセント、という予報が発表されたときは、実際に雨が降るか降らないかは、0パーセントか100パーセントかのどちらかです。しかし、降水確率が30パーセントという予報を出した、たくさんの例を集めてみると、だいたい30パーセントの確率で降水があります。

天気予報の基はコンピュータ予想

きょうからあさまでまでの天気予報は、短期予報とよばれていて、テレビ、ラジオ、新聞などで報道されているものです。

気象庁では、全国を138の地域ごとに、ふつう、1日3回(早朝5時、昼11時、夕方17時)、短期予報を発表しています。これらの予報は、コンピュータによる予想が基になっています。(監修・村山 貢司)

